

ツキノワグマ対策「with Bear」時代の登山術 Ⅱ

～立山地域および薬師岳方面における近年の出没状況と軋轢～

白石 俊 明（富山県立山カルデラ砂防博物館）

1. はじめに

2025年は、富山県内におけるツキノワグマの出没件数が過去10年間で最多となり、初夏から秋にかけては、コア生息地である立山地域および薬師岳方面の山地帯・高山帯でも例年以上に目撃情報が集中した年であった。

特に立山室堂平周辺では、人に対する警戒心が低下した個体が継続的に確認され、観光客を含む人とツキノワグマとの距離がこれまでにないほど縮まった。また、薬師峠キャンプ場（太郎平）や折立登山口では、登山者の食料をツキノワグマが持ち去る事例が発生し、人的被害につながる危険性が高まった。

これらの状況を受け、立山室堂平では環境省職員・立山町職員・猟友会メンバーが常駐して警戒にあたり、見通しが悪く危険が予測される登山道の一時閉鎖措置が取られた。薬師峠キャンプ場においても事故防止のため即日閉鎖され、その後の再開は閉山まで行われなかった。

本報告では、近年確認された立山地域および薬師岳方面におけるツキノワグマ出没事例を挙げながら、クマの行動傾向と軋轢の特徴、登山者や山岳域で活動する施設職員・管理者に実践していただきたい行動・対策について述べる。

2-1. 立山地域の出没状況

2025年7月以降、室堂周辺でツキノワグマの目撃が多発し、環境省は9月1日から室堂に職員を常駐させる対応を取った。9月だけで35件の通報があり、ほとんどが特定の数頭によるものと推測された。特定の数頭とは親仔連れ（2頭）と、1頭で行動する体格の立派な成獣であった。行動は主に「植物の実や葉を食べる」「採食場所を求めて移動する」「休息する」などで、人への積極的接近は確認されていないが、人を避ける行動も積極的にはとらなかった。



折立登山口で頻繁に目撃されたクマ。駐車場とキャンプ場の周囲には電気柵を設置。（2025.7.23_日中 撮影：SK）

2. 登山界の現状と課題

■個別事例

8月14日には、室堂平のみくりが池を泳ぐ姿が確認された。



室堂平みくりが池で泳ぐクマ。
(2025.8.14_16:00頃 出典：富山県警察山岳警備隊X)

9月15日には、観光客の目の前を横切る成獣が情報カメラに記録され、遊歩道の一部を一時閉鎖するなど、観光客の安全確保が必要な状況となった。

2023年、2024年の夏山シーズンにも、人馴れしたクマが人目を気にすることなく採食・移動・休息を登山道でたびたび行っていた。

■提案（立山地域）

- 避難・誘導訓練の実施と定例化
- クマへの接近禁止および撮影行為の自粛（クマの人馴れを助長する行為であるため）

- 雷鳥沢キャンプ場への食料保管庫設置、ゴミ一時預かり制度導入
- AIカメラ等を用いたクマ監視システムの導入
- 観光客向けクマ対策教室の常時開催
- クマ対策官の雇用・制度化、追い払いが可能な体制整備
- 宿泊施設等における雑排水・食物残渣の管理徹底（潜在的餌付けの根絶）



立山ノ越付近の登山道を徘徊するクマ。(2024.9.3_10:30頃 出典：富山県警察山岳警備隊X)

2-2. 薬師岳方面・有峰地域の状況

2025年8月19日、薬師峠キャンプ場でツキノワグマが登山者のテント1張と食料を持ち去る事例、食事の場所へ侵入し登山者の食料を採食する被害が発生した。

この個体は人由来の食べ物に執着している可能性が考えられ再訪と再発の危険があることから、当日のうちにキャンプ場は閉鎖された。

同時期に周辺登山道でも複数回クマの居座りが確認されており、8月3～4日には登山者が滞留して渋滞が起きた事例、クマが立ち去るのを待ったため登山者の山小屋到着時刻が大幅に遅れる事例などがあった。環境省・県（警察、自然保護課）・山小屋では山行計画の見直し・複数人での行動・クマ対策装備の徹底などの事故防止策を呼びかけた。



薬師峠キャンプ場で登山者の食料を漁るクマ。（2025.8.19_17:00頃 撮影：登山者）

■個別事例

8月19日17時前頃、テント内で読書中であった登山者が、テント内に顔を入れてきたツキノワグマ1頭に驚き、反対側の出口からテント外へ待避した。クマはテントを荷物ごとすぐ横のササやぶへ約5m引き込み、何かを採食し、しばらくして立ち去った。

約30分後、富山県警察山岳警備隊員および山小屋職員が現場に到着し、ササやぶ内に残されたテントを回収した。やぶ内には荷物が散逸している可能性

があったが、見通しが悪く危険性を考慮した結果、捜索と回収を断念した。

その後、キャンプ場内の別の場所に、同一個体と推測される中型のツキノワグマが堂々と現れた。テント横で食事中だった登山者が待避すると、クマはそのまま食料を漁り始めた。山岳警備隊員と山小屋職員がクマ撃退スプレーを使用しながらクマに接近したところ、クマはやぶへ逃走した。しかし暫くは様子をうかがい、隙を見ては近づこうとする執着した様子が観察された。当時キャンプ場には約50名の登山者が滞在しており、山岳警備隊と山小屋職員らは近隣山小屋への移動を呼びかけた。多くの登山者は協力的であったが、数組はテント場に残留した。しかし当日の夜には、残っていた登山者も自主的に山小屋へ移動した。なお、周辺には親仔グマ（大型1頭と小型1頭）1組も居ついていたが、遠巻きに様子をうかがうのみで、人への接近、食料や荷物を持ち去る・奪い取る行動は確認されなかった。

■その後の対応と観察結果

当時、このキャンプ場周辺には計3頭のクマが存在していたことが目撃情報から明らかとなっている。登山者が増加する夏山シーズンはツキノワグマの自然界の食物が乏しい端境期にあたることから、人由来の食物を目当てにキャンプ場を頻繁に訪れていた可能性もある。被害発生後、野営場管理者の富山県自然保護課はキャンプ場を閉鎖し、富山県立山カルデラ砂防博物館と協力し、通信式AI自動カメラによる常時監視を実施した。その結果、閉山までの間にクマの再訪は確認されなかった。このことから、人由来の食物とその臭いがなければ、クマは再訪しない可能性が高いこと、また誘引物の除去と適切な管理が事故防止に不可欠であることが示唆された。

2. 登山界の現状と課題

■提案（薬師岳方面、有峰地域）

- ・テント内への食料と食物残渣の保管禁止
- ・食料、ゴミの入った荷物を野外へ一時置きする「デポ」の禁止
- ・日没後、日の出前の野外調理の禁止
- ・テント場への食料保管庫設置、ゴミ一時預かり制度の導入、電気柵で防護した調理可能区域の設定
- ・見知らぬ登山者同士でも声を掛け合い、その場で複数人パーティーを組むことの推奨
- ・テント場、登山口、休憩場所周辺のササやぶの刈り払い、見通し確保
- ・クマへの接近禁止と撮影行為の自粛（クマの人馴れを助長する行為であるため）
- ・有峰ビジターセンター等でのクマ対策普及活動の強化
- ・無防備、無警戒の傾向が強い折立登山口直通バス利用者への注意喚起
- ・クマ対策官の雇用・制度化、追い払いが可能な体制整備

3. 「with Bear」時代の装備・知識・訓練

クマの生息域が極端に縮小していた昭和時代、「登山中のクマ遭遇」は大変珍しい話題であつたろう。その後、平成時代に（東北・中部地方を中心に）本州の大部分の山域でクマの生息状況は回復し、令和となった今日では、クマと人の生活圏は隣り合い、時に重複し、「with Bear」の新しい生活様式が日常生活でも必要な時代に突入した。かつてクマ空白域だった頃に登った山を再訪したところ、「熊出没注意」の看板を見かけ驚くこともあるだろう。立山山麓においてはクマとの遭遇は低山や丘陵でもごく普通の出来事で、立山駅前のロータリー内や、スキー場周辺のみズバショウ観察地でクマの糞や採食痕跡

が確認されていて、観光客や登山者による目撃も時折ある。目撃事例は、言い換えればその多くがニアミスであり、僅かでも位置関係やタイミングが違えば「バツタリ遭遇」にもなり得た看過できないインシデントである。「こんな所にクマは棲んでいない。こんな時間帯にクマは出てこない。」といった過去の常識には縛られず、現在のクマの生息状況と生態をつぶさに学び、急増しているクマ遭遇をひとりひとりが想定し行動しなければ、登山においてもクマとの軋轢は避けられない。私は経験を積んだ年数分だけ加齢による瞬発力や判断力の低下を実感しており、クマの不意打ちを受けた際に無傷でいられる自信はない。それを補うため、クマ遭遇時に役立つ情報の収集と、装備の見直しを常に心掛けている。そのいくつかを紹介するので、皆様にも積極的に取り入れていただき、安全で楽しい山行や自然とのふれあいを今後も継続していただければ幸いである。

◆「首ガード・うつ伏せ法」で顔を守る

北陸電力(株)が山中で行動する職員等のクマ被害防止を目的に作成した印刷物（抜粋）を紹介する。これには、襲われてしまった際の防御姿勢や出会った時の対応法がまとめられている。

クマの攻撃は、最初の一撃が最も被害が大きいとされる。攻撃されやすい部位は顔や頭、胸などの上半身前面で、引っかかれたり噛まれたりした事例が多い。顔を攻撃され失明や歯を欠損すると社会復帰が困難になる。何としてもそれを防ぐため、クマの攻撃を避けられない状況に陥った時には、『素早く地面にうつ伏せになり、顔と体前面を隠し、急所となる頸部を手で覆って守る「首ガード・うつ伏せ法」を必ず実践』してもらいたい。この時、ヘルメットをかぶり、バックを背負っていれば、体の露出が大幅に減る。植物が主食であるクマには積極的に人を

◆物陰に隠れる「木化け法」

クマと遭遇した際、距離があればクマの行動を注視しつつ後ずさりをし、物陰

クマと遭遇した際、距離があればクマの行動を注視しつつ後ずさりをし、物陰

北陸電力株式会社 技術開発研究所

初版

クマによる 人身被害を 防ぐために

クマにご注意!

ツキノワグマの特徴

耳 人間よりは長い。

鼻 犬の7倍程度良いと言われている。

口 鋭い犬歯や木の実をかみつぶす白歯がある。

足 走る速度は時速40kmと言われる。追いかけられたら、普通の人間は逃げられない。バランス感覚が良く木登りが得意。

手 最大の武器「爪」は常に生えている。かき爪で、爪に全体重をかけてフェンスなどを登ることができる。引っかかることで失血死する恐れもある。

成獣 体長 120~145cm
体重 40~130kg

クマは1年中、山で暮らしています
採食については以下の通りです

冬眠 冬眠中は何も食べません

冬 ブナ、コナラ、クリ、クルミなどの木の实

春 ブナなどの新芽、フキ、アザミ、セリなど

夏 ハチ、アリなどの昆虫類、植物類

秋 リュックサック、ヘルメット、ラジオ、クマ鈴、ストック

夜行性 特に朝・夕方に注意

山中 単行性

冬眠しない熊もいます

クマから身を守るための装備チェック

☑ヘルメット ☑リュックサック ☑ストックや傘
☑音のするもの(クマ鈴・ラジオ・笛など) ☑クマ撃退スプレー など
※使用期限を確認すること

クマに遭遇しないために

POINT 1 クマに自分の存在を知らせる
クマ鈴やラジオ、話し声で常にクマに人の存在を知らせましょう。特に、藪や曲がり角・起伏のある場所などの見通しの悪い所や、風や川の音が大きい所では手を叩いたり大声を出すなどクマに存在を知らせ、不意の出会いを避けることが大切です。*くま車から降りる前にクラクションを鳴らし、周囲を警戒しましょう。

POINT 2 クマの痕跡に気を付ける
クマの好物であるドングリ類(コナラ・ミズナラ)やクルミ、ミズギ、カキやその周辺には、爪痕や糞、採食の痕跡が残っています。また、木のて枝を手繰り寄せて木の実を食べた跡の“クマ棚”などクマの活動のサインを見逃さないことが重要です。

もし、クマに遭遇してしまったら

クマは、顔を齧ったり、強力な爪で顔部や頭面を叩くなど上半身を攻撃してくるケースが多いです。まずは、落ち着いてクマと視線をそらす、ゆっくり後退することが肝心です。絶対にクマに背を向けて走って逃げてはいけません。

被害を最小限にする行動を

襲われそうになったら すばやくしゃがんで、大けがをしらないための防御姿勢を!!

後ろ手で組んで首を守ります。

リュックサックが背中を守ってくれます。

足を広げて、クマにひっくり返されるのを防ぎます。

足は踏まれるかも……ガマン。

致命傷を免れるため、頸動脈や顔を守る姿勢をとり、クマが立ち去るまで耐えしのぎます。
ヘルメットやリュックサックを身に付けることで負傷を軽減することができます。

①首ガード・うつ伏せ法
うつ伏せて両手を首の後ろで組み、頸動脈と顔を守る。

②クマ撃退スプレー
写真提供：アクトバック

近くで目撃したら

木などの障害物にすばやく隠れましょう。攻撃をかわすこともできます。この時“クマ撃退スプレー”を使うことで逃げるための時間稼ぎにもなります。

傘を持っていたら、すばやく広げて、存在を大きく見せることも有効です。

2. 登山界の現状と課題

にさっと隠れじっと静止する行動が推奨される。この際、背を向けて走ったり、大声で叫けぶなどクマを刺激する行動をとってはいけない。人が物陰に隠れ静止することで、視覚は秀でていないクマは人を認識できなくなったり、人が見えないことでクマが落ち着きを取り戻したりし、クマ自身からの逃避を促す行動変化が期待できる。万が一、クマが突進してきた場合も、立ち木や看板、電柱などの裏側に避難していれば、直線的な突進をかわせたり、打撃のダメージを軽減できたりする。周囲に細い木しかない場合でも、鳥カゴ状の囲いに入るような位置へ逃げ込み身を縮めれば木立が防護柵になる。このような防御法を「木化け法」と称す。普段から、木に化ける（隠れて静止する）場面を想定しながら歩くと良いだろう。

◆「クマ撃退スプレー」は超安価なお守り

クマに襲われたり突進された際に、市販の道具で最も有効な装備とされる。唐辛子から抽出した刺激成分を高圧で8メートル先まで6秒以上にわたり霧状に噴出することで、クマの攻撃を抑制したり、突進を回避できる効果が高まる。登山用品店で2万円程で入手できるものの高価すぎると敬遠されがちだが、決してそうとは思わない。使用可能な期間は4年程度と長く、それを5人組で購入したならば「2万円÷4年÷5人＝1,000円」となる。年間1,000円の負担で複数回の山行を安全安心にできるその費用対効果を前向きに捉えて欲しい。使用期限が切れたスプレーは、山仲間との訓練で使用し、使い方に慣れておくのが良いだろう。スプレーは数回に分けて使用できるが、残量が不足していたり、スプレーの内圧が低下したりし、次に使用した際に霧が遠くまで到達しない場合もあるので、使いかけスプレーの携行には注意を要す。私は、1グループで

2本以上のスプレーを別々の者が携行し、かつ直ぐに取り出せる腰などへ必ず装着することとしている。なお、購入時にはアメリカ合衆国環境保護庁（EPA）が定めた基準（成分、到達距離、噴出時間等）を満たす“EPA認証つき”のスプレー（商標：カウンターアソールト 等）を必ず選んで欲しい。国内生産品の場合、EPA認証品と同等の性能を有する物は2026年3月時点で1種（商標：熊一目散）のみである。軽量化を謳った小型で内容量の少ない物（230ml未満）は対人護身用でクマには流用できない（役に立たない）。また、風上から使用することが推奨されているが、突発的な使用に際し風向きを気にする必要はないことを強調したい。「風上からしか使用できない」と誤解し、この道具が役に立たないかのように揶揄し携行しないことを正当化する意見もあるが、考えなおしていただきたい。

◆「ストック・傘」の活用

クマに出会った際、長い道具を振り回すと、人の存在を早くきづかせたり、体を大きく見せたりすることができ、クマ自ら逃げ出す効果が期待できる。傘は開いて前に突き出せば、更に体を大きく見せられるし、万が一クマに突進されても、最初の一撃を突き出した傘で受けられれば身体への打撃ダメージを大幅に軽減できる。「登山にストックは不要」と考える方も、クマの生息地へ出かける際にはこれらの携行を勧めたい（散歩や児童の登下校には傘が特にお勧め）。

◆「タオル」は常に取り出しやすく

好奇心の強い若グマや、極度に人馴れし食料を狙うクマが、人を追跡する事例が稀にある。そのような時、所持品をクマの前に投げて気を引いた体験談が多々あるが、決して食物を利用してはいけない。

食物をクマに与えた場合「人に近づくと食物が手に入る」という学習をクマにさせてしまうからだ。その場はしのげても、登山道や登山口の様に多くの人が訪れる場所では、餌付いたストーカーグマをいずれ生み出す。クマに対して投げるものは、首に巻いたタオル・帽子・ハンカチ・ティッシュなど、食べることでできない物からやむを得ない状況においては試して欲しい。緊急時には心細い思いをするだろうから、それに備えてクマ撃退スプレーをぜひ装備に加えてもらいたい。

◆「犬連れ」は危険な場合あり

クマは、外敵に出会った際、ヤブにじっと潜みやり過ごす行動を頻繁に行う。人がクマに気付くことなくそこを通過すれば人身被害にはならないが、犬がクマを発見し吠え立てることで、クマを興奮させ襲われたと考えられる事例が複数ある。北陸地域では、クマの秋の重要な食料となるドングリやブナが不作になると、人の生活圏にクマが現れる大量出沒が数年毎に発生している。その様な年には、犬の散歩中に襲われて死傷する人身事故や、庭先の飼い犬がクマに襲われた事例もある。狩猟者が訓練を受けた猟犬を連れて野山を歩き、野犬まがいの犬たちが集落を徘徊していた時代を知らぬ新世代クマにとって、犬はさほど怖くないのだろう。今日、クマ生息地で登山に犬を連れ歩く護身術は、むしろ危険だろう。

◆出発前には現地クマ情報の収集と予習

リスク軽減のため、出発前には天気予報の確認にあわせて、現地のクマ情報や、最新の装備や対策をチェックする習慣を身につけていただきたい。ホームページ等で情報発信を行っている団体の一例を記す。

- ・日本クマネットワーク (JBN) 「YouTube チャンネル。クマスプレーの使い方」ほか
- ・信州ツキノワグマ研究会
- ・日本ツキノワグマ研究所
- ・環境省「北アルプスにはツキノワグマが暮らしています」
「中部山岳公園クマレクチャー『山岳域におけるツキノワグマの生態と対策』」
「中部山岳国立公園におけるツキノワグマ対策関連資料」
- ・富山県生活環境文化部自然保護課「出沒情報地図【クマつぶ】」
- ・富山県警察山岳警備隊X (SNS)
- ・アウトバック (クマ撃退スプレー等の取扱い)
- ・モンベル「山でのもしものに備える、クマ対策アイテム」

謝辞

貴重な写真や目撃情報等の提供、および調査にご協力いただいた以下の方々に厚くお礼申し上げます。
(敬称略 順不同)。

泉山茂之 瀧井暁子 後藤優介 佐々木賢二 佐々木かおり 河野さおり 堀井琢道 山野本陽平 飯田 肇 澤田研太 富山県警察山岳警備隊 富山県自然保護課 立山自然保護センター 有峰森林文化村 (株)モンベル 岳人編集部 石井スポーツ 信州ツキノワグマ研究会 日本クマネットワーク 北陸電力(株)新価値創造研究所 (株)ほくつう

実物大



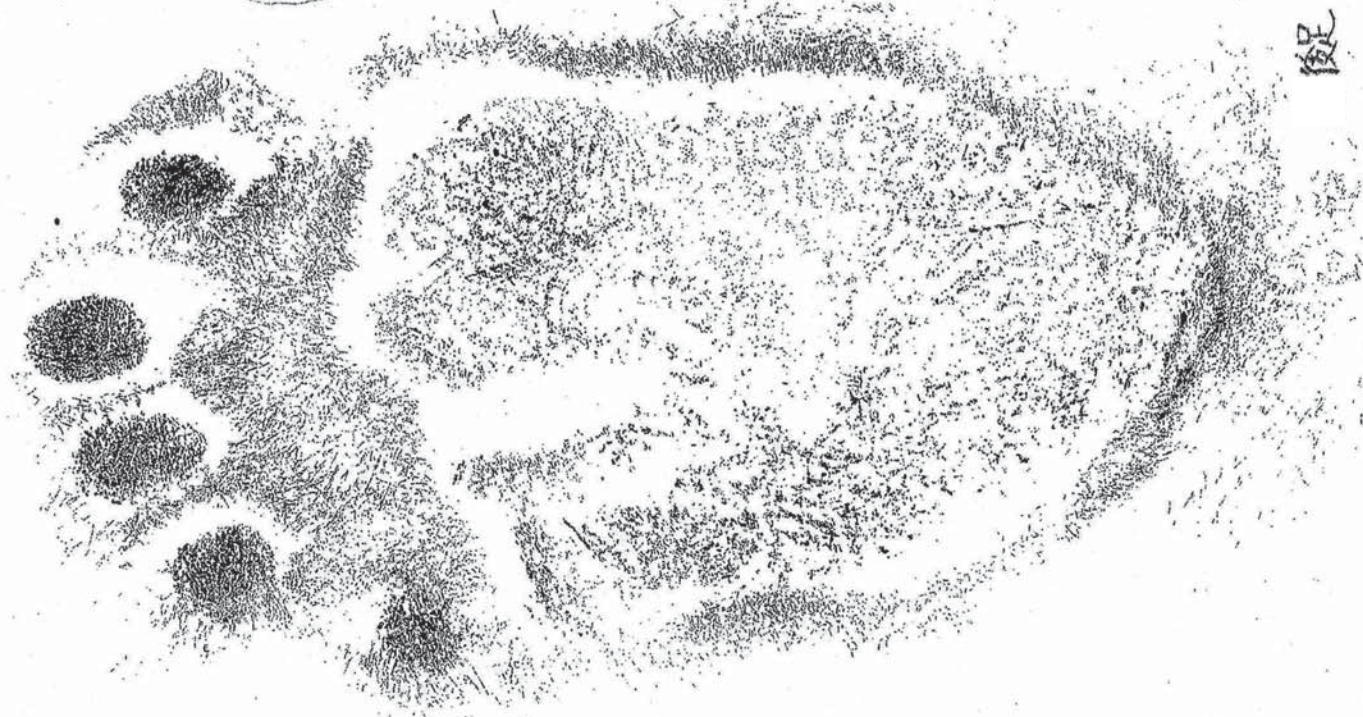
2000. 7. 13

ツキノワグマ (マカブ)

長野県で捕獲

麻酔下でサンプリング採取

泉山、白石



後足

鼻と口

前足

立山カルデラ砂防博物館
TATEYAMA CALDERA SABO MUSEUM